

令和5年度第5回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和6年2月6日（火）14：00～15：40
- 2 場 所 さぬき市役所2階会議室
- 3 出席者 【委員】 石田委員、尾崎委員、柿木委員、檜原委員、川地委員
黒澤委員、小松委員、高田委員、多田委員、筒井委員
- 【事務局】 山下市民部長 山田課長 田村副主幹 山本主任主事
株式会社 ぎょうせい（委託業者）
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議次第 1 開会
2 会長あいさつ
3 議事
（1） 第3次男女共同参画プラン策定について
（2） その他
4 閉会
- 6 配布資料
- 資料1 第3次さぬき市男女共同参画プラン（素案） ほか
- 7 議事の経過及び発言要旨

発言者	意見概要
	＜ 開 会 ＞（14：00）
事務局	ただ今から令和5年度第5回さぬき市男女共同参画推進協議会を開会します。はじめに、さぬき市男女共同参画推進協議会 黒澤会長からあいさつ申し上げます。
	＜会長あいさつ＞
事務局	会議の進行は、さぬき市男女共同参画推進協議会規則に基づき、黒澤会長にお願いいたします。
会長	まず、会議の公開についてです。本会議は「附属機関等の委員の構成及び会議の公開に関する指針」に基づき、「原則公開」となっています。非公開の案件がない限り、公開とすることとします。まず、傍聴申請について、人権推進課長から報告してください。
事務局	現在のところ、傍聴希望はありません。
会長	今のところ傍聴の希望はありませんが、会議途中で傍聴希望があった場合には、随時許可することとします。

会長	<p>はじめに、本日の会議についてです。会議時間はおおむね1時間半～2時間程度を予定しております。スムーズな進行に、ご協力をお願いいたします。本日、議事（1）において説明を聞くため、第3次さぬき市男女共同参画プラン策定支援業務に関する委託事業者「株式会社ぎょうせい四国支社」の山内さんと石丸さんに出席を求めています。</p> <p><山内さん、石丸さん挨拶></p>
会長	<p>では、議事（1）「第3次男女共同参画プラン策定について」に入ります。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメント（市民からの意見募集）結果について ・資料1について
会長	<p>今の説明について、質問や意見はありませんか。</p>
会長	<p>まず、64 ページ数値目標の重点項目について伺いたいと思います。事務局からの説明にあった、重点項目を第2次プランの3項目から新たに3項目を追加して6項目にするということについて何かご意見はありませんか。</p>
委員	<p>第2次プラン（改訂版）見直し時にも委員として参加していた。重点項目を定めたのは、見やすいものがあつたらいいということだったと思う。当時、これに力を入れてみないかということで聞いたような記憶がある。今回も委員が皆これでよいとなれば、これでよいし、今後はこれではなくこちらということであれば、変更したらよいと思う。重点項目にするということは重点的にアクションをかけていくということか。</p>
事務局	<p>第2次プラン（改訂版）の重点項目は、5年に1度の市民アンケートでわかる数値、つまり市民の意識の部分に設定していました。例えば基本目標1の重点項目「社会全体において『男女平等』と感じる市民の割合」については、広報や啓発を実施して、最後にこの数字に表れてくるものだと思っています。重点項目は、5年間でどこまでいけたか、市民がどう感じているかがわかるものだと考えています。</p>
委員	<p>さぬき市の人口はずっと減っており、若い世代を取り込み一緒に考えていくのが目標になっていると思う。それならば、事務局提案の「子育て世代が安心して暮らせる…」の項目を重点項目に追加するのはよいと思う。市の人口の4割は高齢者であるが、子育て世代を重点的に捉えていく必要があると思う。</p>
委員	<p>見せ方の話ではあるが、通常、目標値はあくまで目標値である。本来なら目標値と管理値があつて、一番上の重点項目を管理しているわけではなく、目標を達成するための具体的方策を管理する。私の勤める会社ではそうやっている。ここに書いてある数値目標は並列ではなく、重点項目の目標を達成したいのだからそれを達成するために何を管理するとうまくいけるか、いけないかが分かるという見方をするのが、リスクコントロール指数という管理手法だ。そういうふうに表示すると、今後の課題としてイメージできてよいのでは。重点項目とは何かについての意見はないのだが、重点項目をこれだけにすると、読んでいて若干違和感がある。</p>
委員	<p>このプランは人権に関係がある。この中には意識と、講座開催等の行動が入り混</p>

事務局	<p>じっている。両方とも大事だが、人権には意識が大事なので、意識を高めるためにこういう行動をするというのがある。重点目標は高い目標なので、これでよい。意識がないといけないので、そのための講座の回数等がある。重点項目は、星印ではなく太い文字にする、各基本目標の最初に置く方が市民には分かりやすい。たくさん項目の中で星印を入れるのではなく、今後大事だという目標が重点項目になると思う。</p> <p>考え方はそれぞれあると思います。重点項目は前回から引き継いでいますが、もう一つの考え方があります。例えば基本目標1「誰もが認めあえるまちづくり」の指標として、社会全体において「男女平等」と感じる市民の割合を見ると、進んだかどうか分かる一つになるかと考えています。そのほかの講座等の実施回数といった項目では、取組を進めるために毎年回数を測る、講座の回数を重ねることが市民の男女平等意識につながっていくイメージです。基本目標の進捗を重点項目で測るというイメージで捉えています。</p>
委員	<p>平等と答える市民の割合が高ければ、極端に言えば、講座等の実施回数は少なくてもよい。一番大事なところの数字を上げるためにどうすればよいかだ。臨機応変に考えてもよいと思う。</p>
会長	<p>基本目標には全て「誰もが」が付いています。「誰もが」は市民のこと。市民が実感していることが指標の中でも一つの目安になるのではないかとのことでした。市民の意識を重点項目にすることでよいと思ったのですが、いかがでしょうか。事務局の説明でよく分かったので、特に意見がなければ、事務局に任せる形で進めたいと思います。そのほか、全体を通して何かあれば意見ををお願いします。</p> <p><異議なし></p>
委員	<p>59 ページ「市民の健康づくりの推進」の主な取組の中の「性と生殖に関する健康と権利」について、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」とあるが、「セクシュアル」はいらないのか。</p>
会長	<p>「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR)」と表現することもあります。内閣府男女共同参画局ではこの言葉を使用しています。</p>
委員	<p>3 ページ「国際社会における我が国の位置付け」について、説明文に「特に『政治』や『経済活動』の分野における男女間格差が目立っています。」とある。先日参加した女性活躍にかんする講演会で元男女共同参画局長の講師が、「政治が一番男女平等からかけ離れている」と話したことが印象に残った。ジェンダー・ギャップ指数を見ると、日本は 125 位に下がって、政治分野は 0.057 だ。1 位のアイスランドと比べるとかなり差があり、他国と比べても差がある。そこで「政治への参画が少ない」と「政治」を強調してもらいたい。また、同ページのジェンダー・ギャップ指数の表について、英国よりも高い順位にあるドイツや、日本を追い越した南米、アフリカの国等も入れて、市民に関心を持ってもらいたいと思う。</p>
委員	<p>ジェンダー・ギャップ指数で日本が順位を下げているのは、たしかに政治分野だ。今も裏金問題や失言があり、深刻な問題だ。できれば、資料編にジェンダー・ギャップ指数全てを入れてもらいたい。2、3 ページでできる。これを見ると、日本はこんなに低いのかと思う。資料としての価値があると思う。</p>

委員	<p>47 ページ「政治への関心を高める広報・啓発」の取組が、他に比べふわっとしているように感じる。日本のジェンダー・ギャップ指数で政治分野が低い原因だと感じた。</p>
委員	<p>小中学生や高校生が政治に関心を持つよう、行政から働きかけてやっていく。中学生のワークショップも当日までに学校や学級で事前勉強をし、ワークショップに持って行くようにするとよい。市民や子どもから話を持ってくるような方向にしていけないといけないと強く感じた。</p>
委員	<p>主な取組に「若年世代に向けた広報啓発」とあるので、そういったことも考えていると思う。</p>
委員	<p>若年世代に向けた広報啓発は、中高生はあるようだが、小学生にはないような気がする。デンマークだったと思うが、5歳から政治教育を取り入れ、友だち同士で議論して自分の意見をその場で言う、そして友だちの意見も否定しない、といったことを最近読んだ本で知った。ディベートを5歳からやっている国民と、全くそういうことをしないで社会に出た国民では、国際社会で差がつくのは当然だ。国際競争力うんぬんというのなら、そういう教育を幼児からできるようなカリキュラムに徐々にしていけないといけなかった。また、経団連が女性活躍担当相に、選択的夫婦別姓を速やかに導入するよう提言したと、新聞記事に載っていた。海外に出て行く人たち、研究者や経営者等の女性たちは夫婦同姓がゆえに不条理を被っていると書いてあった。経済分野でもそういう不満が出ている。そう思っている女性がたくさんいても、どの場で声をあげたらいいのかわからない。選挙でそういう人を選ぶしかない。イギリスのBBCが2017年から「フィフティフィフティ ザ イクオリティプロジェクト (50:50 The Equality Project)」を始めた。テレビに出てくるスタッフ、メンバーの男女比50:50を目指すというもので、全ての番組で行われている。NHKも2021年から参加しているそうだ。たしかにNHKは民放に比べて、女性のアナウンサーや司会の割合が高い。力の大きいマスコミが中心になって、そういう取組を進め、目にする人が変化に気付いたら、受け取る側にも変化が出てくるのではないかと期待している。</p>
委員	<p>マスメディアでも動きがある。パネルディスカッションに出ている人は男性ばかりなので、意識していけないといけぬ。こういうことは、市民もウォッチできる。プランにも「固定観念にとらわれない広報の推進」というのが入っているので市民から声を上げていい、その際プランを使って、という形でできたらよいと思う。ジェンダー・ギャップ指数の政治分野への影響として大きいのは、歴代の首相に女性がいるかどうか、国会議員の男女の割合が影響するようだ。プランの中で「政策・方針決定の場における男女共同参画の推進」という基本方針を打ち出しているので、このプランを活用しながら変えていくことができると思う。</p>
委員	<p>55 ページ「DV被害者の自己決定を支援するためのフロー図」について、DV被害者は女性や子どもと考えがちだが、夫が妻からDVを受けている場合もある。そういう場合、男性はどこに相談するのか、家庭内で我慢しているのかと感じた。男女共同参画であれば、男性についても考えてよいのではないかと感じた。男性に対しても「何かあったときの助けがある」と表現されているとよいと思う。「一時保護：女性のみ」とあるが、男性でも保護してもらいたい人がいるかもしれない。</p>
事務局	<p>フロー図を作成する際、男性の場合はどういう流れになるか担当の子育て支援課に確認し、表記についても話し合いました。このフロー図でいえば、男性も同じフローで相談できますが、香川県子ども女性相談センターの一時保護は女性しかでき</p>

	<p>ない、ということで現在の表記となっています。委員の意見を聞き、この図では男性も相談できることがわかりにくいと感じたので、再度書き方を考えます。</p>
委員	<p>「子ども女性センター」という名前は、本当に助けを求めている男性にとってあまりにも辛すぎる。</p>
委員	<p>センターの名称を変えることは難しいが「男性も受け付ける」や「男性もご相談ください」というような一言を加えることはできると思う。</p>
委員	<p>全国的には男性が被害者の事例が多く発生しているが、「被害者は女性」と考える人もまだまだ多い。「男性も相談可能」ということをどこかに書けばよいと思う。女性より男性の方が我慢してしまうことも考えられる。</p>
委員	<p>プランの内容についてはこれでよいと思う。事務局がプランに則って取組を進める際には、やるべきテーマをこなせばよいという概念ではなく、どれをやるべきなのか、どういう方法でやるべきなのか、どういう期間でどのくらいやるべきなのかというのを少しまとめて実践に移すと、より効果を生むのではないかという気がする。</p> <p>先ほど政治参画についての意見で、子どものときにディベートをやるというのがあった。それも対応の一つだが、政治に参画できていない、政治に参画できるようにするためのファクターは何なのかを、事務局はマトリックスや体系図にまとめるかして、一つ一つのアクションがそこに結びつくようにしてもらいたい。プランに羅列していることをこなし、目標値の変遷を見るだけでは弱い。6ページ「女性活躍・男女共同参画の重点方針 2023（女性版骨太の方針 2023）の構成」の各分野のテーマは、政治への参画を進めるための一つのアクションでもあるし、違うテーマに沿うためのものかもしれない。重点項目はあってもよいが、そのほかはいいのかと、ねじ曲げて言う人が出てくる。これ一つをとっても、うまくまとめていくことが求められる。女性が政治に参画できない、女性が活躍できないというのは、根っここの部分に何があるのか。意志を持っている人はたくさんいるかもしれないが、経済的な理由、日常生活の理由で物理的に政治に参画できないということかもしれない。そういうファクターが一部あるとすれば、そこからつぶさないといけない。またそのファクターは、実は女性活躍にも連動している。一つ一つの施策は数字を高めるためということではあるが、それぞれの構成に対して、どれに影響を及ぼすテーマかということをよく吟味して、実際のアクションの中身、内容に落とししてもらえたらいいのではないかと思う。このプランは難しいテーマばかりなので、全く改善を見ないということはないが、飛躍的という話では必ずしもないのではないかなと思う。根っこをたどっていくと、日本古来の文化まで入っていかないとけないかもしれないが、おそらく何年かして、人口が 7,000 万、8,000 万となったとき、そんなことは言っていられない時代が来ると思う。</p> <p>私自身会社を営んでいるが、知的な作業は女性に任せている。事業者側が適材適所、最大限組織のパフォーマンスを上げるというときに、誰をそこに充てるべきか考えると、女性はパフォーマンスのレベルが高い。そういう現状で男女の給与差が生まれるはずはないが、実際の賃金は男性の3分の2だ。そういう旧来の概念は徐々にあるが事業者側も薄れているし、そもそも人を採用できない環境が出てくる。ジェンダー・ギャップ指数の順位が低いのは、考え方というよりは、それで成り立つ日本文化なんだろうと思う。子どものときからなじませるのは非常に大事だろうし、そこにクエスチョンマークのつく大人にしていけないといけない。そういう意味での選択なり、考え方の多様性というのを学ばせていくのは大きなポイントになる。</p> <p>プランはハイレベルだと思うが、今後効果的な施策をどう進めていくかがポイント</p>

	<p>トだ。目標値を達成するためにどうすれば効果があるのかを各担当課を中心に考えてもらう必要がある。数値目標について、子育て世代を項目に入れているのは大事なことだと思う。男女共同参画プランではあるが、実際にはさぬき市のまちづくりプラン、住みよしさぬき市を作っていくためのプランだと思うので、全ての人が安心して満足に暮らせる市を作っていくかといけなと考えたとき、将来を託すのは子育て世代、若い人だ。子育て世代に頑張ってもらわないといけな。さぬき市の人口ピラミッドを見ると、20、30、40代が激減、若い人、特に女性が出ていっている。若い女性が出ているのはさぬき市だけでなく、全国的な傾向だそう。女性が自由を求めて出て行く、田舎のしがらみみたいなものから逃れたい意識が強いそう。若い女性の住みにくい雰囲気があるのではないかという気がする。例えば子育てのしやすさや住みやすさで満足できないなら、その理由をきちんと分析し、施策を打ち出していくというのが大事だ。さぬき市には遊び場や公園はあるが、小学生以上が対象で、幼稚園や保育園の子どもが遊べる遊具がほとんどないと様々な所で聞く。志度公民館と長尾公民館が新築されるが、乳幼児を対象としたキッズルームを用意してくれている。そういうのがあると、親は息抜きができるので、良いことだと思う。そういう一つ一つの取組が、若い人がさぬき市に住み続けてくれるポイントになると思う。仕事で高松市へ出て行くのは仕方ないが、さぬき市はさぬき市で良いところがあるというのを施策で打ち出していく必要があると思う。子育て世代が楽しく豊かに生活できるさぬき市にしていくことがウエイトを置くポイントなのかという気がする。</p>
<p>会長</p>	<p>今日出た意見の反映については、紙面の都合もあるので、事務局に一任でよいでしょうか。</p> <p><異議なし></p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続いて、概要版について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p><説明></p>
<p>会長</p>	<p>事務局が概要版を作る際に参考となるアイデアを聞きたい、ということですね。皆さん、何か質問やアイデア、配布先にかんする意見などはありませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>問い合わせ先のQRコードがあると助かる。最近外国人住民をよく見るようになったので、多文化共生、少し英語版等の表記があるとよい。英語等の相談窓口があるだけで違うと思う。子ども服のリユースをしているが、日本語でしか書いていないのに、それを読んでベトナムや中国の人が来てくれる。またスーパーでは、おそらくイスラム圏の人だと思うが、アプリをかざしながら商品の裏を見ている。自分からは声を掛けにくいので、そういう人たちが概要版を見て、自分たちにも関係があることが分かると、私たちも嬉しい。イラストも外国人のイラストを入れるなど工夫してもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>コンパクトでインパクトがあるのが大事だと思う。例えば数値目標が載っているが、一般の人にどれだけ必要であろうか。先ほど話されたように、相談窓口といった具体的なものと役に立つ。前回の概要版だと、見たら捨てるかもしれない。啓発だけでなく、実生活に役立つものがあると置いておける。忙しい人たちが読まざるを得ないような内容にしてもらいたい。相談場所はぜひ入れてもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>第3次プランの概要版は何ページか。</p>

事務局	最大8ページです。
委員	男女共同参画なので、数値目標は知ってもらいたい。スペースがないのなら、QRコードを読んでもらう方法もある。ただ、たくさん文字を書くと、読んでもらえない可能性もある。
委員	文字は大きい方がよいと思う。どの世代も読みやすい文字の大きさやフォントにすることは大事だ。
委員	ターゲットは市民であるので、子どもでもわかるようにする意識も大切だ。小学5年生がわかるようにすると、幅広い年齢層を網羅できる。学校でも使ってもらえる。色についても、色弱の人もあるし、色のコントラストで読みにくいこともあるため工夫をお願いしたい。UDフォントの使用なども考えてほしい。相談窓口はあった方が使いやすい。QRコードの話が出たが、いつまであるか、5年後はどうかとったりもする。英語版等ほかの言語、市で一番多い外国の人の言語で作ると、役立つと思う。自動翻訳もある。皆が使いやすいものを作るといい。
委員	概要版では「一人ひとり」となっている。本編は「一人一人」になっているので、統一した方がよい。個人的には「一人ひとり」の方がよい。
委員	防災においても、子どもたちに防災教育をして、その後やったことや情報を各家庭に持って帰ってもらう方が大人にも聞いてもらえる。子どもたちから「こんな話を聞いた」「こんなパンフレットをもらった」と聞くと、保護者や祖父母たちが興味を持つかもしれない。そうすると広がりやすい気がする。行政が発行するもので小学生が読めるものはあまりないので、チャレンジしても面白いかもしれない。どのくらい発行するのか。
事務局	300部の予定です。ただし、年度の途中でも必要なら検討していきます。
委員	教室に貼れるようにしてもよい。配り方や活用の仕方を工夫して、有効に使ったらよいと思う。
委員	道徳の授業でやるといいかもしれない。
委員	社会の時間や総合的な学習にぜひ使ってほしい。
委員	概要版は、基本的にさぬき市役所に来た人がもらうのか。積極的に配布するというものではないのか。
事務局	市が主催する講演会等で配る予定です。
委員	もしデータをもらえたら、ニュースとして配れる。置いているものを持って帰ってもらうのは、ハードルが高い。
事務局	広報紙にQRコードを入れて、見てもらうことはできると思います。
委員	QRコードを読みこんでもらうインパクトがないと、誰も見ない。何かしてほしい。

委員	パブリックコメントでの意見がなかったように、市役所に置いてある概要版を読もうという市民は少ない。インパクトがあってコンパクトにしないと誰も見ない。
委員	当たりくじを付けるくらいしないといけないのでは。さぬき市は公式LINEをしている。最近LINEには「これをしたらクーポンをプレゼント」というのがある。さぬき市で使える何かがあるとよいのではないか。
委員	男女共同参画の川柳・俳句等は特定の団体に依頼していなかったか。QRコードを上手に使うって個人を対象に募集するとよい。
事務局	以前は市内の団体に依頼していたこともありましたが、今は広く一般に募集しており、スーパー等に募集チラシを貼ってもらっています。今年は市内の高校生からもたくさんの応募があったので、若い方にも積極的に広報すれば、よい反応をいただけたと感じました。
委員	ほとんどがアプローチ不足、アプローチの対象者を間違っている。ターゲットがふわっとしており、具体的に人数や居住エリアといったマーケティングをしないで進めているので、そういうことをきちんと押さえてアプローチすれば反応がある。
委員	学校への周知という観点からは、まず先生にしっかり理解してもらわないと、子どもに伝わらない。先生から子どもに話をしてもらうと、学校現場での周知ができると思う。
委員	私が教員をしていた時代、年に一回の研修の際に行政の責任者が来て説明していた。また民生委員の会でも、市から話があった。いろいろな場やチャンスがあるので、積極的にやってもらえると有り難い。
委員	行政的には非難を浴びる可能性があるかもしれないが、現状でこれはまずいというのがイメージできるようなものを逆説的に載せてみるというやり方もあるではないかなと思う。訴えかけていくものとして、また読んだときに自分を顧みる意味では、きれいにデザインして、美辞麗句を並べるよりも訴求力が高い気がする。全てをそれにするとやり過ぎるが、部分的に例えば一つの事案を四コマ漫画で描いて、どう思うかと問いかけるなどだ。意識を変えていこうというとき、どこの意識を変えるべきか、本当に変えてもらわないといけない部分を題材にして載せてもよいのではないか。社内の考課制度を逆説的にしようかと取り組んでいる。例えば「困っている人がいたとき、積極的に手を差し伸べて支援をする」という項目について、あえて「困った人がいても見捨ててほったらかしにする」となど書く。また、災害が起きたとき「機械に挟まれている人を、誰一人見捨てることなく助けるか」と問うのではなく「挟まれた人が悪い。助けていたら皆死んでしまうので、運が悪かったと見殺しにして皆で逃げるか」と問うなど。
事務局	市民に渡すという意味で、極論は書きにくいですが、そういった発想が入るのもいいように思います。
委員	問題提起をし、そこから次につながるとするなら、そういうものもあってもよい。シンガポールのたばこは、値段がとても高い。またパッケージに日本の場合は「健康のために吸い過ぎには注意しましょう」といったようなことが書いてあるが、シンガポールでは「毒です」とあり、どくろマークが付いている。二度と見たくないようなイラストが入っている。どちらが訴求しているかだ。繰り返しになるが、行政がどこまでできるかだが、外部ブレンにそういうのをしてもらうのもい

<p>会長</p>	<p>いんじゃないかと思う。</p> <p>行政が言いにくい、やりにくい場合には、委員がそれぞれの現場で今のような逆説的なパフォーマンスをして、後方支援をやってもよいかと思えます。見せ方について、いろいろ意見がありました。概要版の作成についても事務局に一任するのでよろしいですか。</p> <p><異議なし></p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。事務局は意見を参考にしながら作業を進めてください。では、議事（２）その他について、事務局から何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回協議会は、３月７日（木）の開催を予定しております。ご多忙とは存じますが、是非ご参加くださいますようお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局から説明がありました。何か質問などはありませんか。</p> <p><質疑無し></p>
<p>会長</p>	<p>本日の協議会はこれで終了です。最後に山下市民部長からあいさつをお願いします。</p> <p><山下市民部長あいさつ></p>
<p>会長</p>	<p>本日も活発な議論をありがとうございました。以上で、令和５年度第５回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会します。お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: center;">< 閉 会 > (15 : 40)</p>